BOSE®

OWNER'S MANUAL

ミニディスクレコーダー

MDA-15

この度はMDA-15をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、必要なときにご覧になれるよう大切に保管しておくことをおすすめします。合わせて箱や梱包材も、後日製品の修理メンテナンス等が必要になった場合のために保管しておくことをおすすめします。

MDA-15 取扱説明書



※説明の便宜上、イラストは原型と異なることがあります。
※本機は単体でも機能しますが、本機の性能を発揮するため別売のボーズ社アメリカンサウンドシステムシリーズ（AMS-1III、リモコン付属）と組み合わせてお使いになることをおすすめいたします。

安全上の留意項目

ご使用の前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示について

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

⚠ 警告

電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
⚠	●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
⃠	●乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。
使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
⃠	●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
●	●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
⃠	**通風孔のある機器のみ** ●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
⚠	●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

⚠ 警告

⃠	●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。 ●この機器の通風孔、カセットテープの挿入口、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。 ●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。
分解禁止	●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。 ●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。
⃠	●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加工したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。 **ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ** ●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW（容量）を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。
●	●シンナーやベンジンなどの揮発性の薬品やクレンザーなどは、変色や傷を付ける原因となりますので使用しないでください。

⚠ 注意

⃠	●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。 ●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。 ●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。 ●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に湿度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。 ●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
⚠	●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。 **電池を使用する機器のみ** ●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス ＋ と － の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
●	●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 ●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
⚠	●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。 ●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。 ※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。
⃠	●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。 ●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●	●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
⃠	●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
⚠	●お子様がディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。
⚠	●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
⃠	●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。
⃠	●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。
⚠	●万一の事故防止のため、この機器を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてください。

特長

■AMS-1IIIとベストマッチを実現

AMS-1IIIのセンターユニットRA-15、DVA-15と幅、高さのサイズを揃えるだけでなく、フロントパネルのレイアウトや仕上げ等のデザイン、カラーを統一。AMS-1IIIと組み合せると、機能面でも電源オン・オフ、録音開始・終了までの完全シンクロを実現しているので、一体化したMDコンポとして簡単・便利にお使いいただけます。

■長時間ステレオ録音を可能にしたMDロングプレイモード（MDLP）

LP4モードなら録音時間80分のMDで最長320分、LP2モードでも160分のステレオ録音が可能です。

■多彩な機能

選曲や文字入力も使いやすいジョグダイヤルで簡単。再生機能もプログラム再生やランダム再生、リピート再生と多彩、ダイレクト選曲も可能。またグループ機能によりお好みの曲をグループごとに編集できます。さらに、アナログ録音時だけでなく、デジタル録音時の録音レベルの調整も可能です。

■AMS-1III用リモコンとの統一感を備えた専用リモコン

MDA-15専用リモコンは、デザインだけでなく基本機能もAMS-1IIIの専用リモコンとの統一性を実現。使いやすさを高めています。

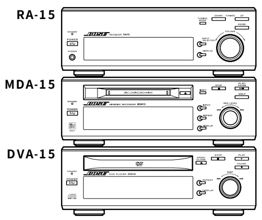
セッティングのしかた

本機はボーズ社アメリカンサウンドシステムシリーズAMS-1IIIとシステムを組むことができます。

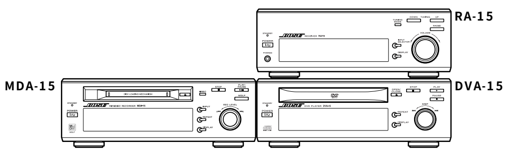
システムの性能を発揮させるため、次のように設置してください。

システムを組む場合、MDレコーダー(MDA-15)は中段に設置し、ステレオレシーバー(RA-15)が最上段になるように設置してください。ステレオレシーバー(RA-15)の上、横部の放熱口をふさがないでください。放熱が妨げられると火災や故障の原因になります。

縦組みに置いた場合（正面図）

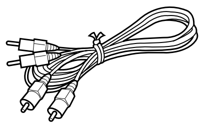


横組みに置いた場合（正面図）

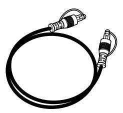


付属品

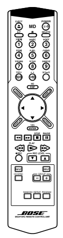
オーディオピンケーブル（2本）



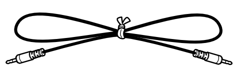
光デジタルケーブル（1本）



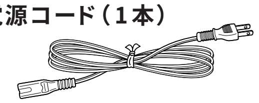
リモコン（1台）



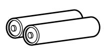
システムコントロールケーブル（1本）



電源コード（1本）



単4乾電池 2個（チェック用）



目　次

接続図

本機には、サンプリング周波数に自動的に対応するコンバーターが内蔵されています。 デジタル入力信号を MD のサンプリング周波数（44.1kHz）に変換して録音します。したがって CD、MD だけでなくサンプリング周波数の異なる DAT（32kHz、48kHz）などを本機でデジタル録音できます。

注意

デジタル録音できないときは “ DIN　UNLOCK ” または “ CANNOT　COPY ” が表示されます。 このときはアナログ入力端子につなぎ、INPUT キーで “ ANALOG　IN ” に合わせて録音してください。

すべての接続が終了するまで、ステレオレシーバー（RA-15）の電源プラグは、コンセントから抜いておいてください。

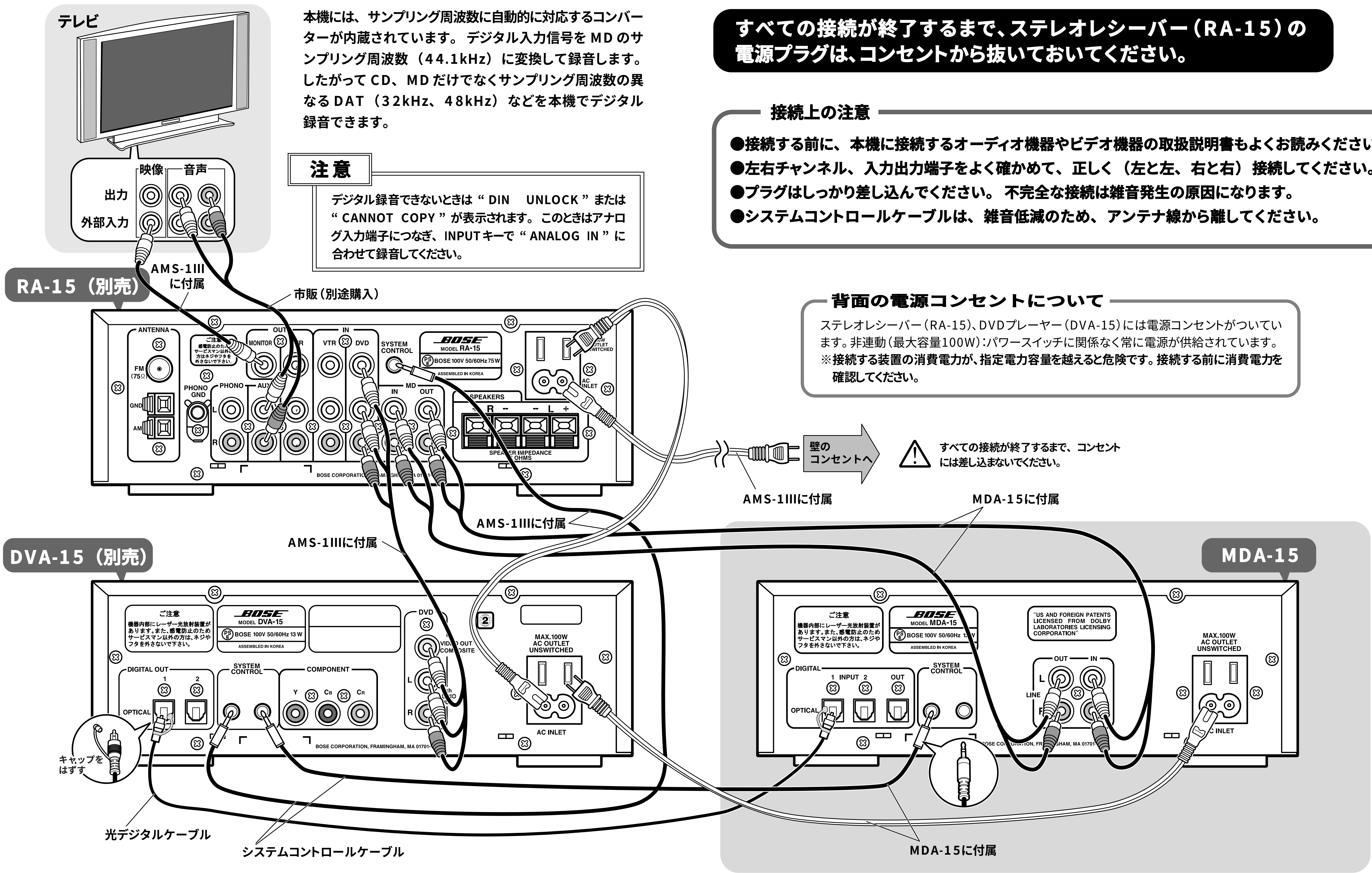
接続上の注意

- **●接続する前に、本機に接続するオーディオ機器やビデオ機器の取扱説明書もよくお読みください。**
- **●左右チャンネル、入力出力端子をよく確かめて、正しく（左と左、右と右）接続してください。**
- **●プラグはしっかり差し込んでください。 不完全な接続は雑音発生の原因になります。**
- **●システムコントロールケーブルは、雑音低減のため、アンテナ線から離してください。**

背面の電源コンセントについて

ステレオレシーバー（RA-15)、DVDプレーヤー（DVA-15）には電源コンセントがついています。非連動（最大容量100W）：パワースイッチに関係なく常に電源が供給されています。

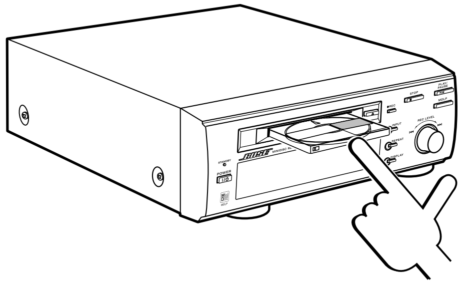
※接続する装置の消費電力が、指定電力容量を越えると危険です。接続する前に消費電力を確認してください。



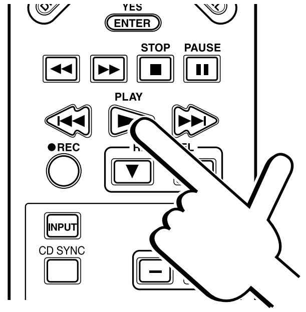
MDを聴く

MDA-15

①



②



本体では
PLAY/PAUSEキーを押す

MDを録音する前に（CDシンクロ録音）

MDA-15

CD SYNC録音をするために次のことを確認してください。

- システムコントロールケーブルを正しく接続してください。
- 録音用のMDを正しくセットしてください。
- MDに録音できる空きがあることを確認してください。
- 入力セレクターが"DIGITAL IN 1"になっていることを確認してください。※1
- 録音レベル※2が適正になっているかどうか確認してください。

※1　6〜7ページのとおりに接続している場合です。光デジタルケーブルが入力されている端子を選択してください。

※2　レックポーズ時にリモコンのREC LEVELキーまたは本体のREC LEVELつまみで調整します。
基準レベル：アナログ録音レベル：−3dB　デジタル録音レベル：0dB

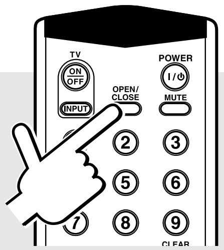
MDに録音する（CDシンクロ録音）

MDA-15

① セットの電源がONになっていることを確認する

② AMS-1IIIのリモコン使用

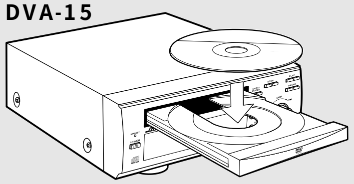
RA-15/DVA-15用



本体では
DVA-15のOPEN/CLOSEキーを押す

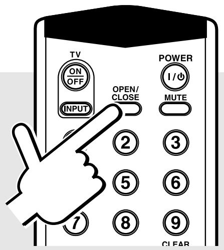
③

DVA-15



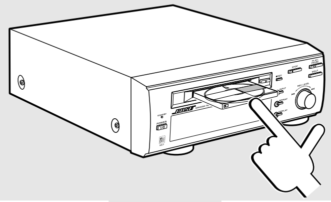
④ AMS-1IIIのリモコン使用

RA-15/DVA-15用



本体では
DVA-15のOPEN/CLOSEキーを押す

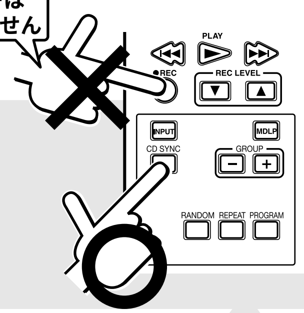
⑤



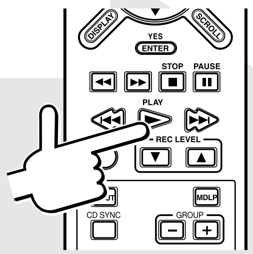
MDLPによる長時間録音をする場合

⑥ MDA-15のリモコン使用

RECキーは使用しません



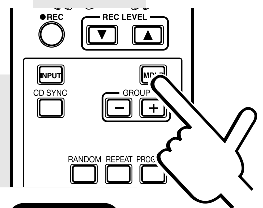
⑦ MDA-15のリモコン使用



本体では
PLAY/PAUSEキーを押す

CD終了時録音終了

長時間録音



本体では
MDLPキーを押す

MDLPについて P.16

●録音終了後、録音を開始した曲の番号が点滅している時にMDのPLAYキーを押すと、新しく録音した曲を再生できます。

●CDシンクロ録音は、AMS-1IIIまたはPLS-1510と組み合わせた時に使用できる機能です。その他の機器を組み合わせてご使用になる場合は、録音について（14ページ）をご覧ください。

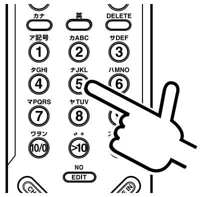
基本操作

ダイレクト選曲

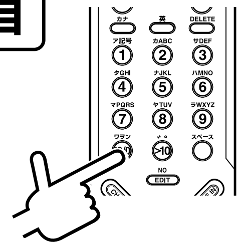
聴きたい曲番号を入力!!

たとえば・・・・

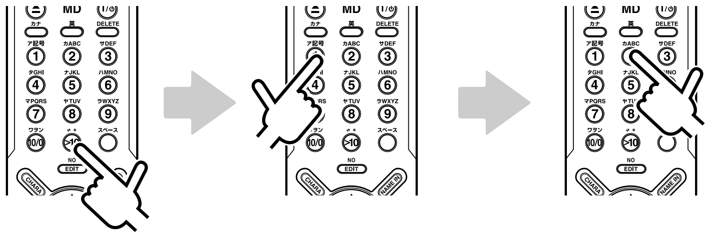
5曲目



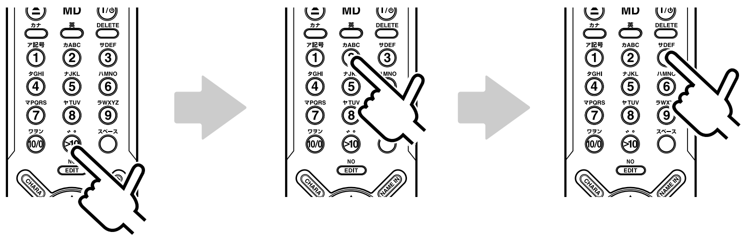
10曲目



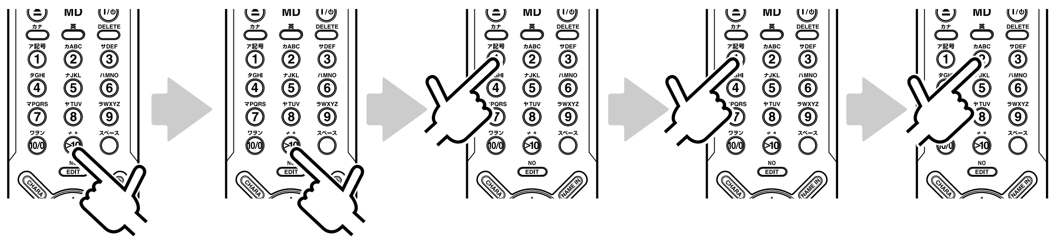
12曲目



23曲目



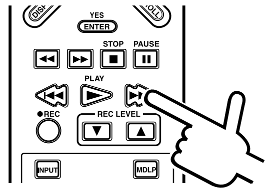
112曲目



スキップ選曲

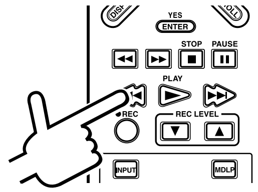
再生中

次の曲へ



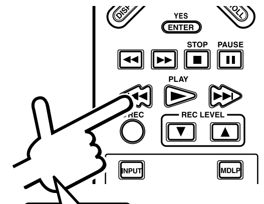
本体では
REC LEVELつまみを右に回す

曲の先頭へ



本体では
REC LEVELつまみを左に回す

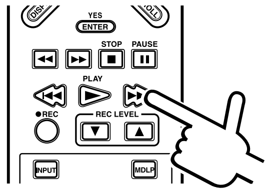
ひとつ前の曲へ



2回押す

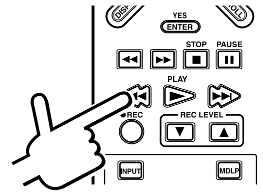
停止中

次の曲へ



本体では
REC LEVELつまみを右に回す

ひとつ前の曲へ

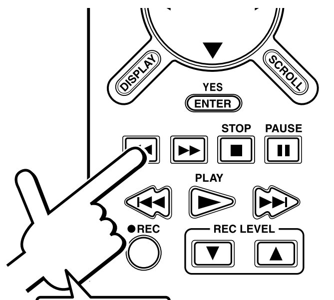


本体では
REC LEVELつまみを左に回す

早戻し、早送り

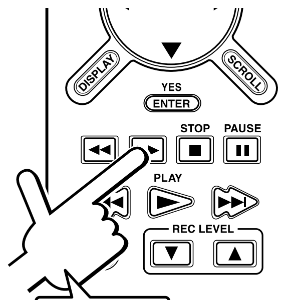
再生中

早戻し



押し続ける

早送り



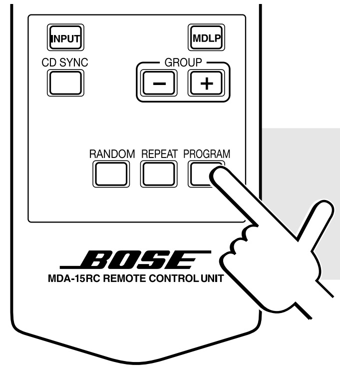
押し続ける

MD レコーダー MDA-15

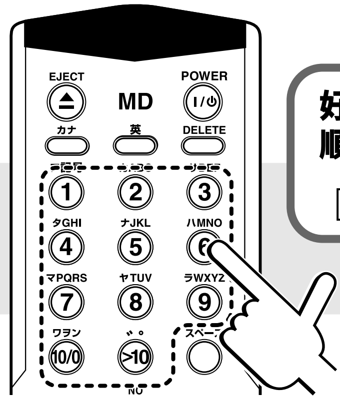
好きな曲を好きな順番に聴くには（プロ グラム再生）

①

停止中



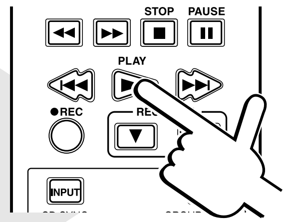
②



好きな曲（曲番号）を
順番に続けて入力

ダイレクト選曲 P.10

③ プログラム再生

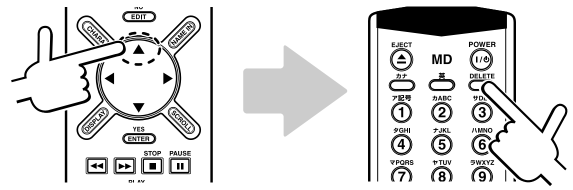


本体では
PLAY/PAUSEキーを押す

プログラムを追加する場合

停止中

追加する曲番号を入力

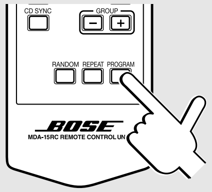


※カーソルキーの▲、▼を使って、プログラムした最後の曲の次の番号にプログラムしたい曲番号を入力してください。

●プログラムできる最大曲数は30曲です。

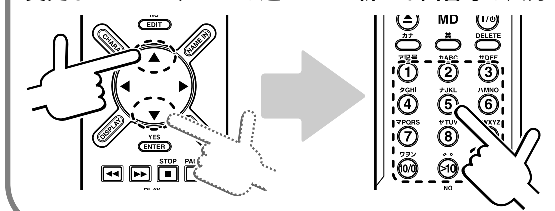
●プログラム再生を解除するには

停止中



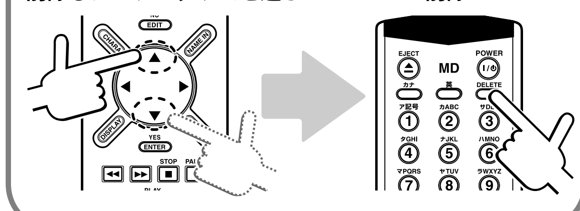
プログラムした曲を変更する場合

変更したいプログラムを選ぶ　新たな曲番号を入力



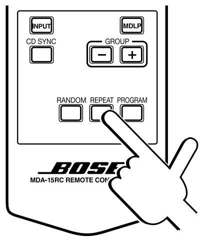
プログラムした曲を削除する場合

削除したいプログラムを選ぶ　削除



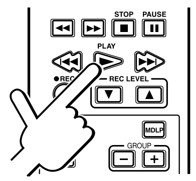
MD レコーダー MDA-15

リピート再生



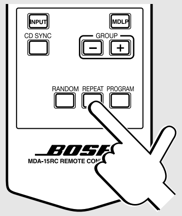
本体では
REPEATキーを押す

再生



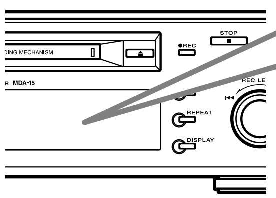
本体では
PLAY/PAUSEキーを押す

●解除する場合



インジケーターの「REPEAT 1」、「REPEAT ALL」が消灯するまでキーを押します。

押す度にインジケーターが変わる



REPEAT 1 …現在聴いている1曲だけを繰り返し再生します。※

※プログラム再生中はREPEAT1は選べません。

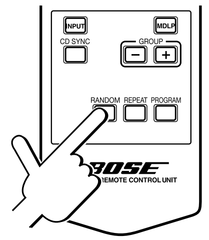
REPEAT ALL …ディスク全て、あるいはプログラムした曲全てを繰り返し再生します。

インジケーターが消灯…通常再生。

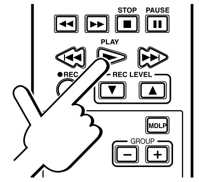
MD レコーダー MDA-15

ランダム再生

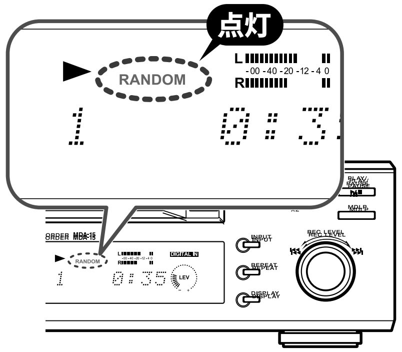
停止中



再生

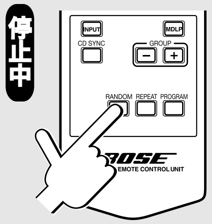


本体では
PLAY/PAUSEキーを押す



●解除するには

停止中



いろいろな再生について

録音する前に

録音するときのご注意

“ PROTECTED ”が表示されたときは：

MDが誤消去防止状態になっています。MDの誤消去防止用つまみをずらして孔が閉じた状態にすれば録音できます。

“ DISC FULL ”が表示されたとき：

MDの録音するための空きがありません。いらなくなった曲を消去して空きをつくるか、新しい録音用MDを用意してください。

“ CANNOT COPY ”が表示されたとき：

デジタル録音できない音源をデジタルで録音しようとしています。入力をアナログにして録音してみてください。

“ DIN UNLOCK ”が表示されたとき：

・INPUT(インプット/入力切換)キーで選択したデジタル録音が正しく接続されていません。音源を正しく接続してください。

・音源の機器の電源が入っていません。電源を入れてください。

便利な機能（スマート・スペース）

本機には録音中に無音状態が長く続いた時録音を一時中断し、余分な録音をしないようにする機能が装備されています。

・録音中に約4秒、無音状態が続くと表示部に“ Signal Wait ”の表示が点滅し。音声信号が入力されるのを約20秒待ちます。その間に信号が入力されると、曲番号を1つ増やして次の曲として録音を再開します。

・20秒以上無音が続いた場合は、録音待機の状態になります。再び、▶/❚❚（プレイ/ポーズ）キーを押すと録音が再開します。

曲番号の付き方

録音したい音源によって曲番号の付きかたが異なります。

・CDまたはMDが音源で、INPUTキーを“ DIGITAL IN 1 ”または“ DIGITAL IN 2 ”に合わせて録音するとき：

曲番号は、音源のCDやMDと同じように付きます。ただし、次のようにして録音した部分にたいして、曲番号が1つしか付かないことがあります。

・同じディスクの同じ曲を繰り返して（1曲リピートなどで）録音した部分。

・違うディスクの同じ曲番号を続けて録音した部分。

また、MDが音源のときは、4秒以下の曲には曲番号が付かないことがあります。

・DATや衛星放送をデジタル録音したり、外部の機器からの音声をアナログ録音する場合：

録音した部分全体で1曲として扱うため、曲番号は1つしか付きません。曲番号は、録音中または録音後に好きなところで付けることができます（「曲番号の付け方」17ページ、「曲を分ける」20ページを参照）。

・DATや衛星放送などが音源で、INPUTキーをデジタル入力に合わせて録音するときは：

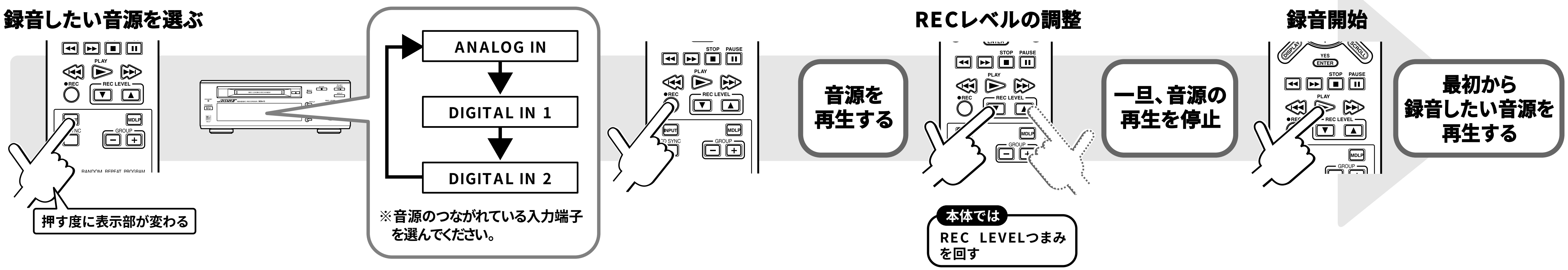
入力信号のサンプリング周波数が変わると、曲番号が自動的に変わります。

“ TOC ”が点滅しているときは

録音した内容をMDに記録しているので、電源プラグをコンセントから抜いたり、本機をゆらしたりしないでください。正しく録音されないことがあります 。録音の後にすぐに電源プラグを抜くと、録音した内容を記録できません。

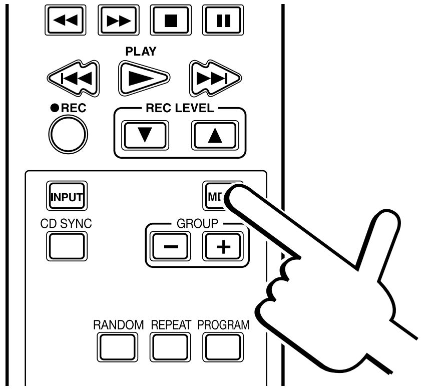
本機はシリアルコピーマネージメントシステムに準拠しています。
デジタル録音したMDをさらにデジタル録音することはできません（36ページを参照）。

録音のしかた（CDシンク録音をするときは8ページ参照）

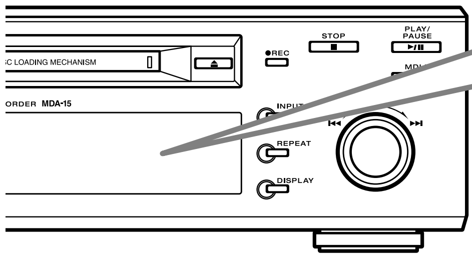


録音について

MDLPについて



本体では
MDLPキーを押す



押す度にインジケーターが変わる

LP2…最長160分のステレオ録音※
↓
LP4…最長320分のステレオ録音※
↓
インジケーターが消灯…通常再生

※録音時間80分のMD使用時

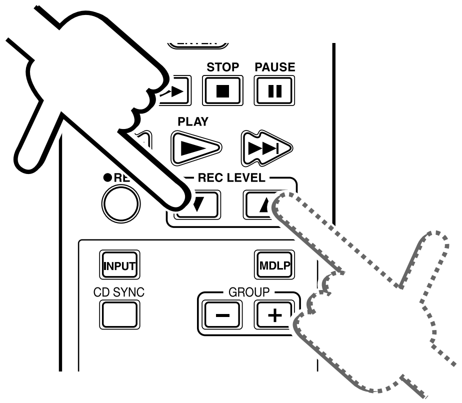
●MDLPモードは録音時に有効です。再生時は自動的にMDLPを判別して再生します。

●コンバイン（曲をつなぐ）時の注意
圧縮率の違う曲どうしのコンバインはできません。

LP2とLP4 …できない	LP2とLP2 …できる
LP2と標準 …できない	LP4とLP4 …できる
LP4と標準 …できない	標準と標準 …できる

録音レベルの調整

レックポーズ または 録音中



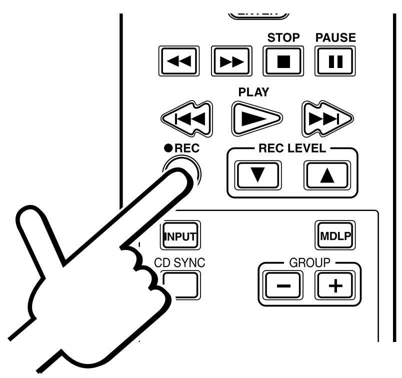
本体では
REC LEVELつまみを調整する

●DIGITAL
初期値　　0dB

●アナログ
初期値　　-3dB

手動で曲番号を付けるには

録音中



録音中、RECキーを押す度に曲番号が一つづつ増えます。ただし、CDシンク録音中は働きません。

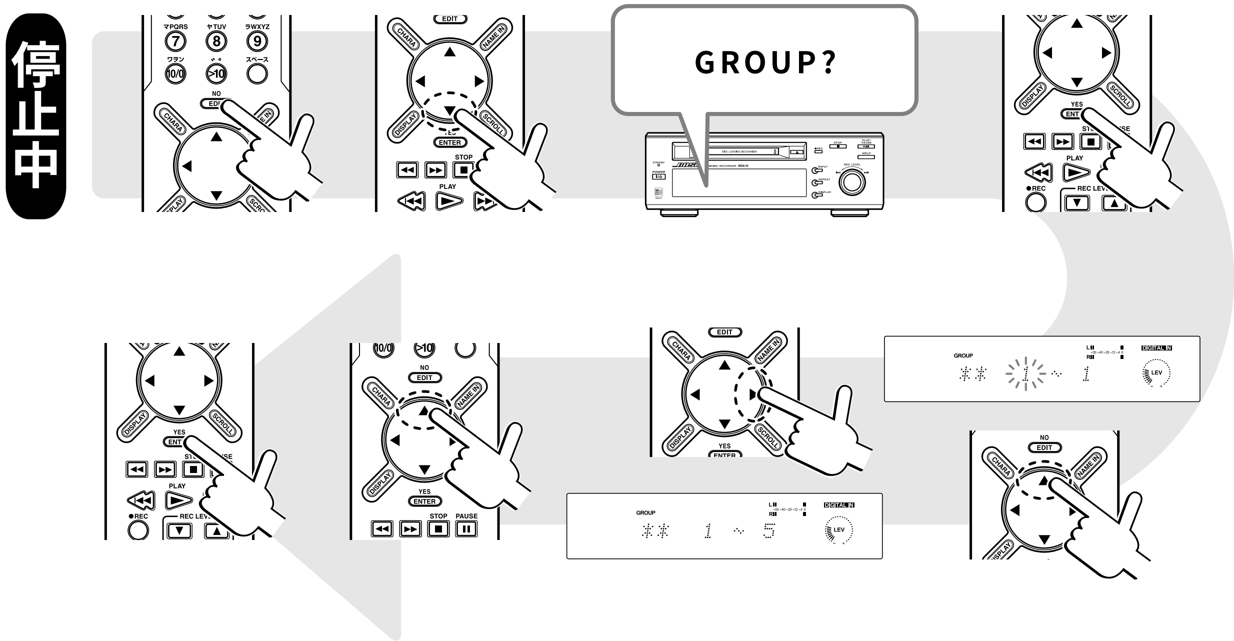
●録音後にも曲番号を付けることができます。編集操作で曲を分けると曲番号が一つ増えて記録されます（曲を分ける（デバイド機能）20ページ参照）。

※自動による曲番号の付き方は「曲番号の付き方」15ページを参照してください。

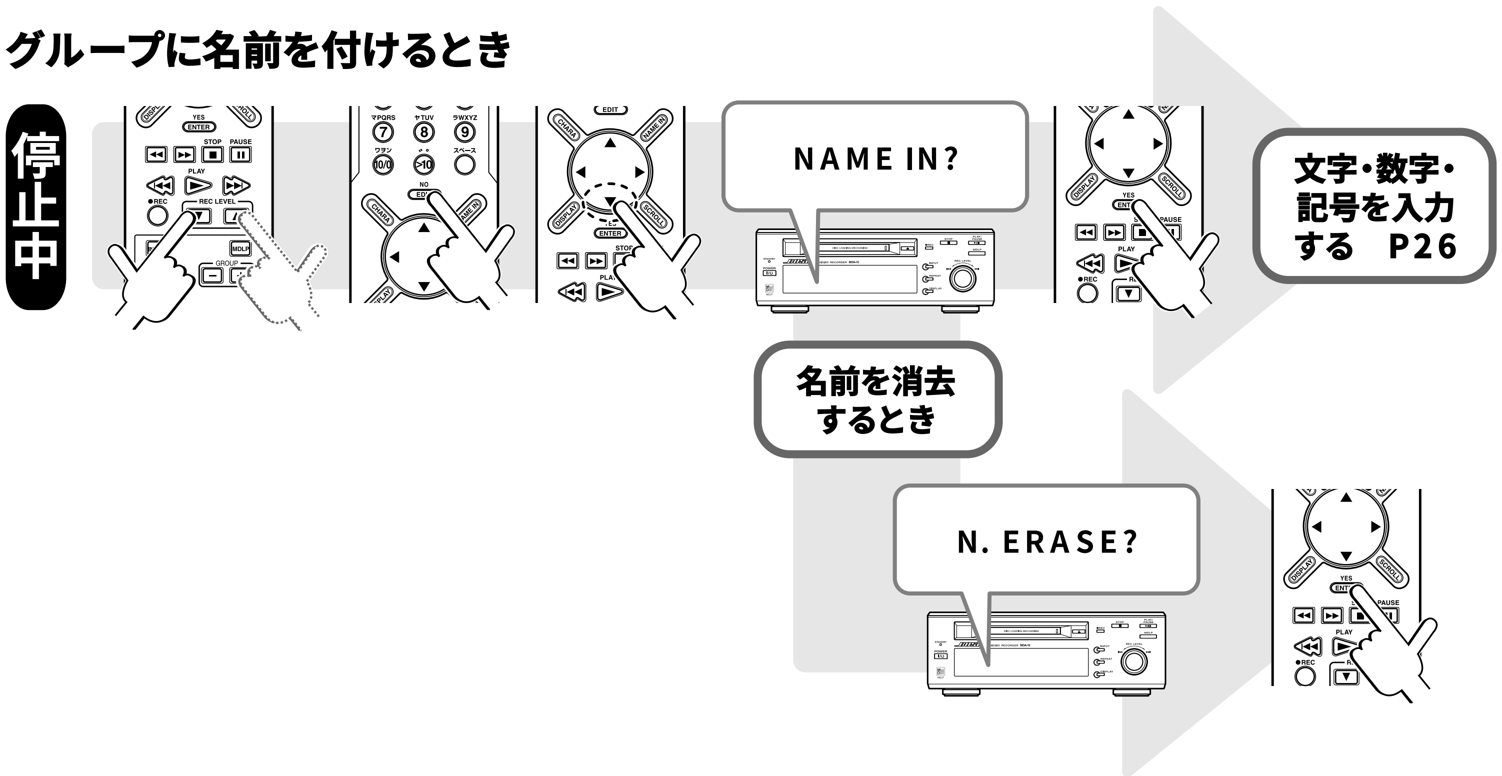
曲のグループ化

連続した、いくつかの曲をグループとして登録し、グループ内でのリピート再生や、グループ単位での選曲ができます。

グループのつくり方



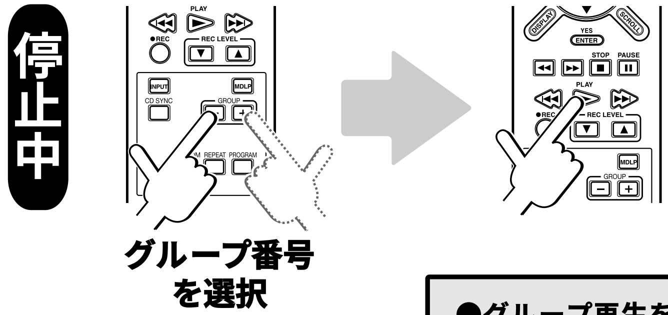
グループに名前を付けるとき



●グループ化する曲とグループ番号について

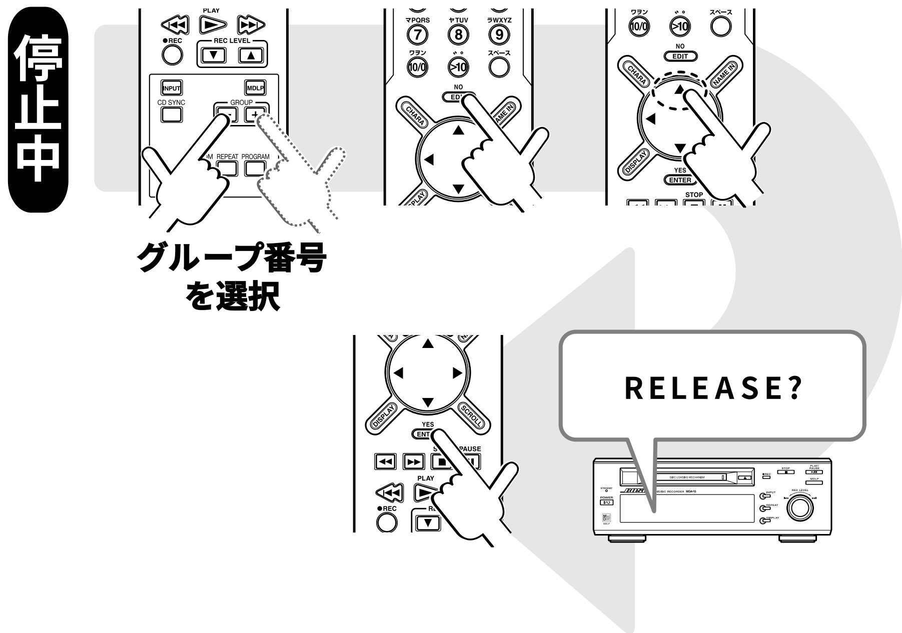
- グループ化する場合は、必ず連続した曲でなければなりません。
- グループ化する場合は、曲番の小さい方から順番にしか登録できません。
- 1曲が2つのグループにまたがるようにグループ化することはできません。
- グループ再生中はグループされていない曲は再生されません。
- グループ番号は1番から順番に振られます。途中のグループ化を解除した場合、自動的に番号が繰り上がります。

グループ再生するとき



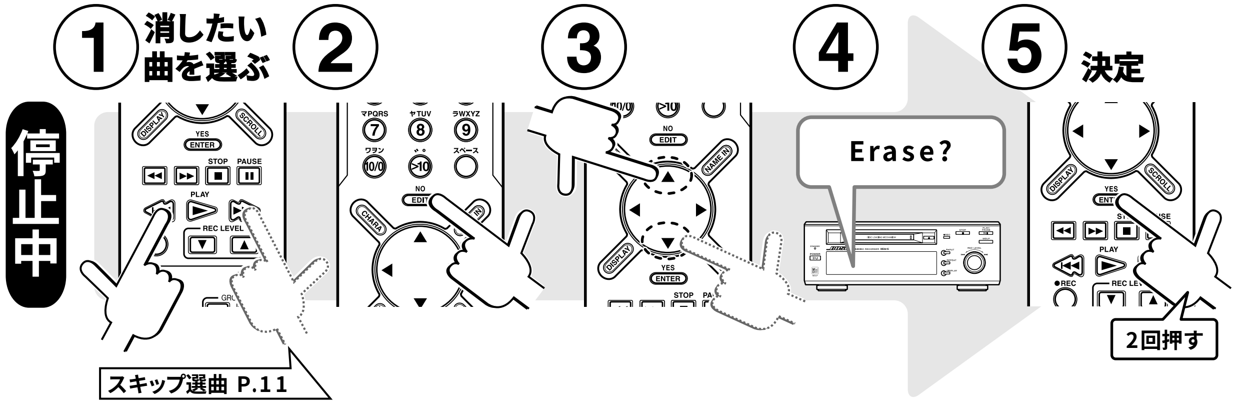
●グループ再生をやめるときは■STOPキーを2回押します。

グループ削除のしかた



曲を消す

1曲ずつ消す



スキップ選曲 P.11

例:B曲を消すとき

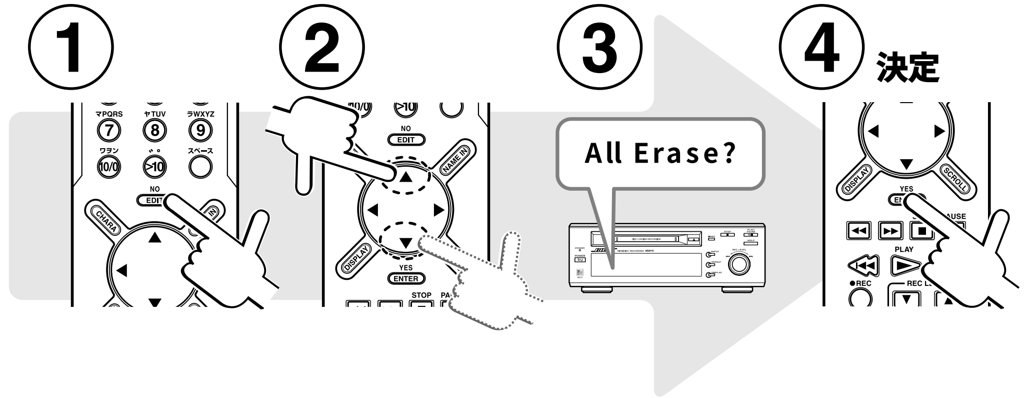
曲番(TRACK)

1トラック	2トラック	3トラック	4トラック
A曲	B曲	C曲	D曲

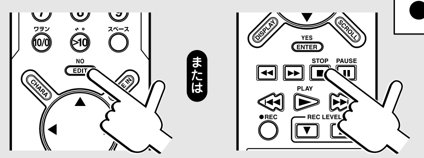
1トラック	2トラック	3トラック	
A曲	C曲	D曲	

B曲が消える

すべての曲を消す



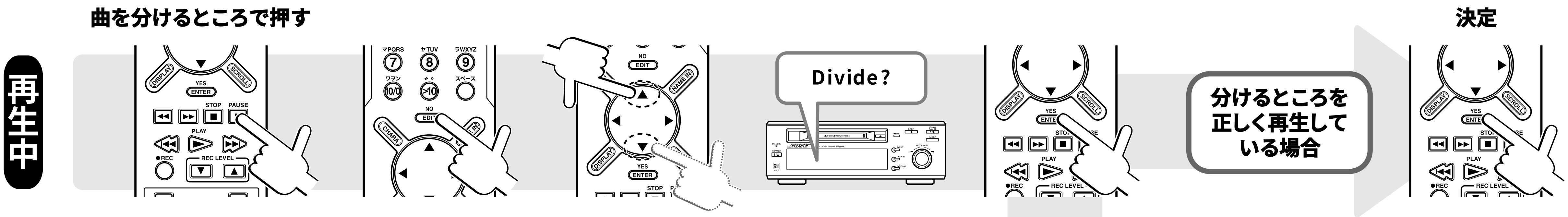
●途中でやめるには

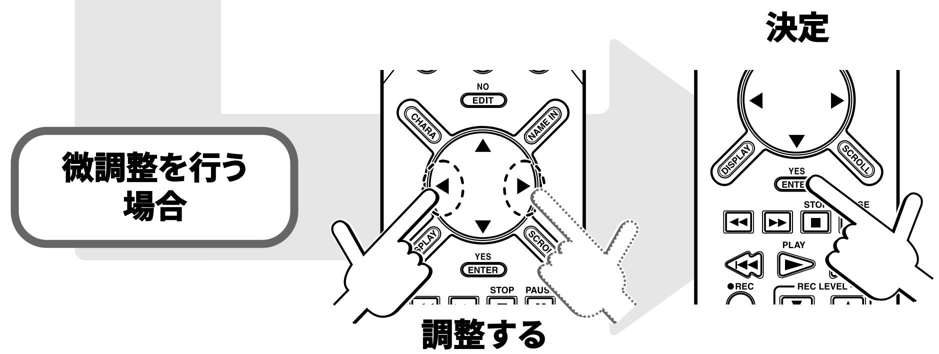


注意! 表示部に“ Protected ”が表示されたときはディスクが誤消去防止状態になっています。

MDの取り扱いについて P.35

曲を分ける（デバイド機能）





例:2曲目をB曲とC曲に分けるとき

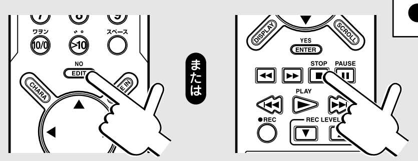
曲番(TRACK)

1トラック	2トラック		3トラック
A曲	B曲	C曲	D曲

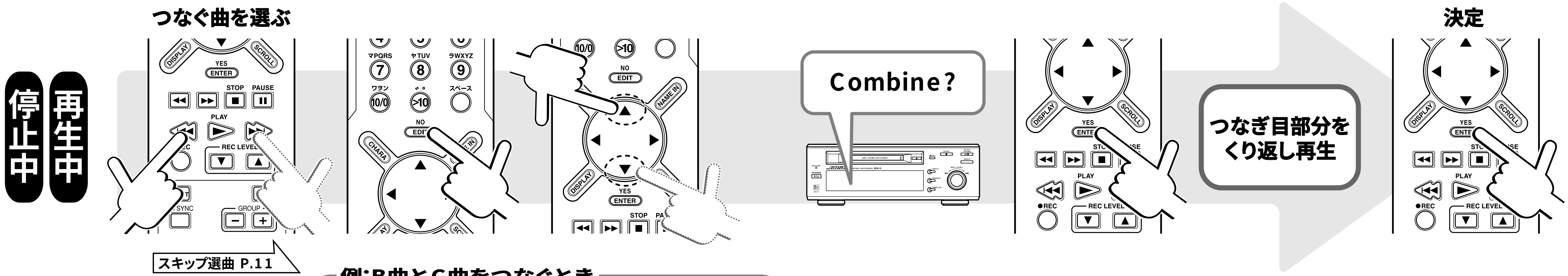
1トラック	2トラック	3トラック	4トラック
A曲	B曲	C曲	D曲

B曲とC曲に分ける

●途中でやめるには



曲をつなぐ（コンバイン機能）



スキップ選曲 P.11

●表示部に表示された曲を前の曲とつなぎます。例えば、2曲目と3曲目をつなぐときは、3曲目を表示させます。

例:B曲とC曲をつなぐとき

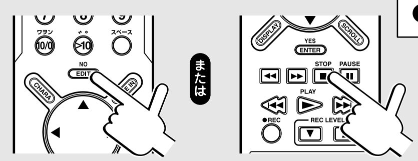
曲番 (TRACK)	1トラック	2トラック	3トラック	4トラック
	A曲	B曲	C曲	D曲

曲番 (TRACK)	1トラック	2トラック		3トラック
	A曲	B曲	C曲	D曲

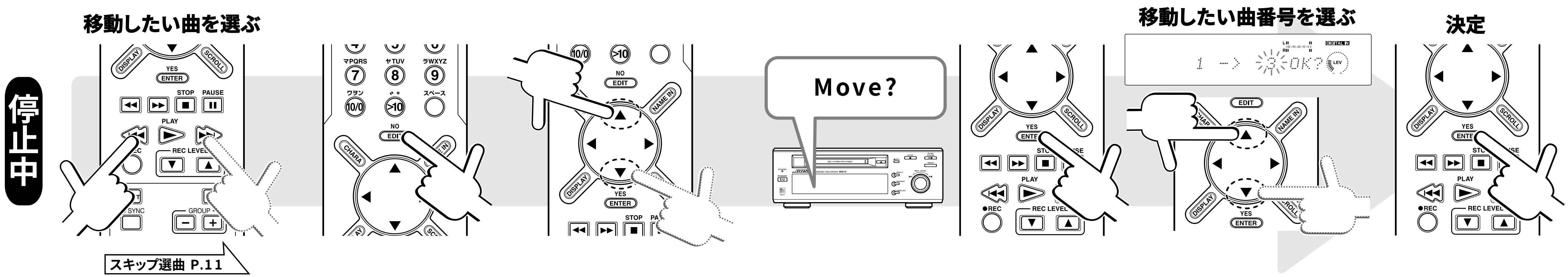
B曲とC曲がつながる

●MDLPモードで録音した曲と標準モードで録音した曲のコンバインはできません。ただしLP2とLP2、LP4とLP4同志のコンバインは可能です。

●途中でやめるには



曲を移動する（ムーブ機能）



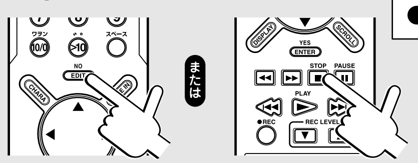
スキップ選曲 P.11

例:A曲を3曲目に移動するとき

曲番 (TRACK)	1トラック	2トラック	3トラック	4トラック
	A曲	B曲	C曲	D曲

	1トラック	2トラック	3トラック	4トラック
	B曲	C曲	A曲	D曲

●途中でやめるには



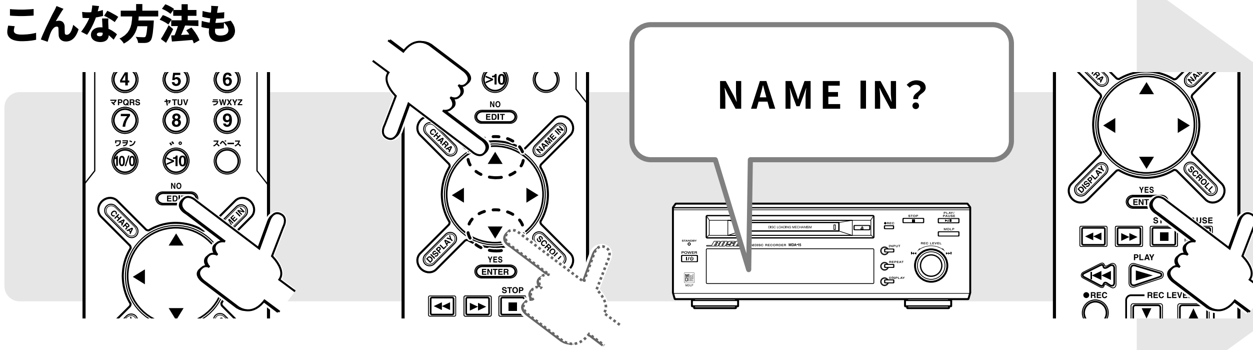
編集機能

曲名、ディスク名およびグループ名を つける（ネームイン機能）

●タイトルをつける前のご注意

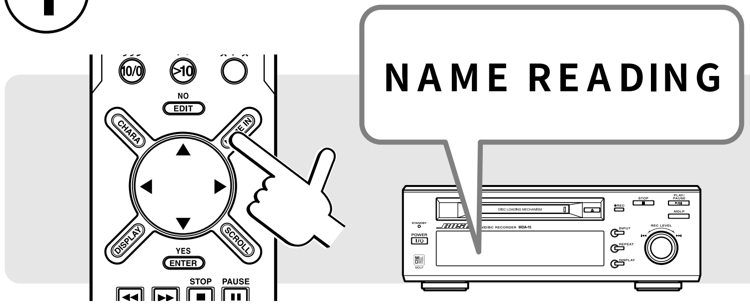
- **曲名をつける場合**（ランダム、プログラム再生中はできません）
  再生中、再生一時停止中、録音中に曲を選んで（曲番号を表示して）いるときに操作できます。※**スキップ選曲（11ページ）を参照してください。**
- **ディスク名をつける場合**
  停止中に曲を選んでないときに操作できます。
- **グループ名をつける場合**
  グループに名前を付ける（18ページ）を参照してください。

こんな方法も

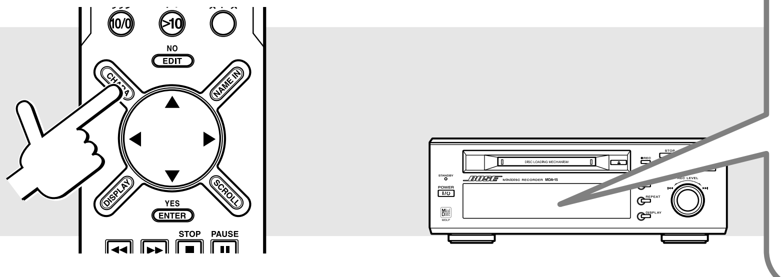


② にすすむ

①



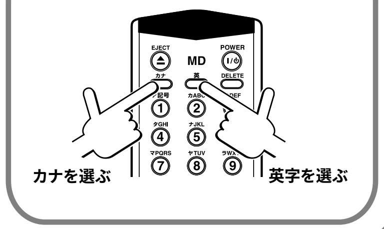
②



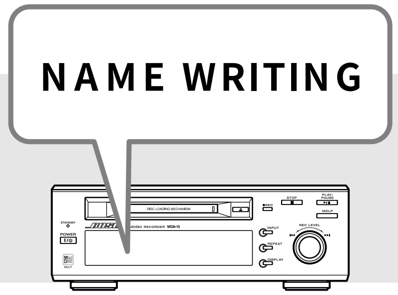
押す度に文字の種類が変わる

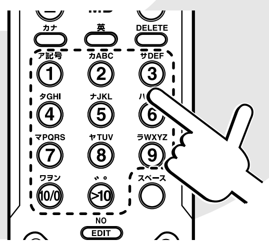
- Aa …英字/記号
- カナ …カタカナ
- 12 …数字

こんな方法も



③



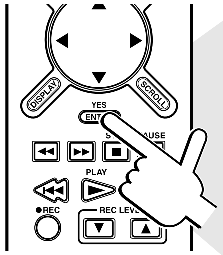


②③をくり返して曲名/ディスク名を入力する

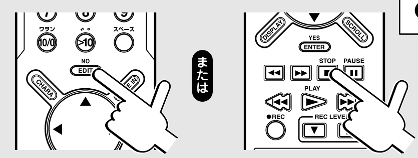
文字・数字・記号を入力する P.26

④

決定

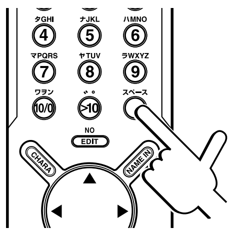


●途中でやめるには



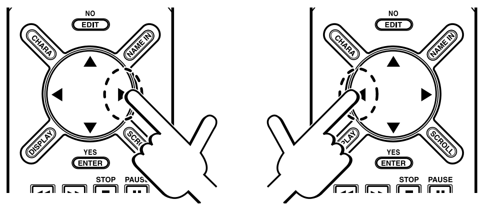
●ディスク1枚に記録できる文字数は曲名、ディスク名およびグループ名それぞれ60文字までで、総て合わせて約1700文字までです。

スペースを入れるには



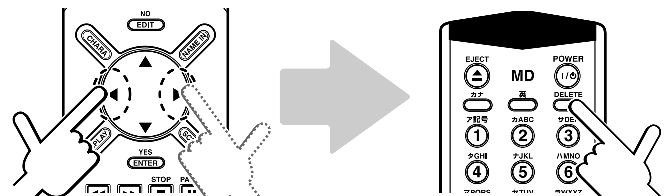
一文字分移動するには

右に移動　　左に移動



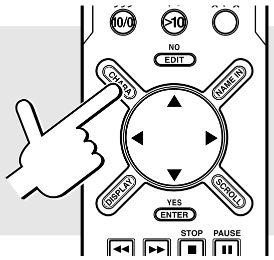
文字を消すには

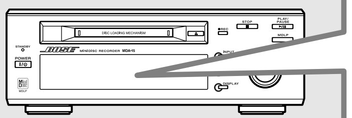
消したい文字に移動



文字・数字・記号を入力する

① 文字の種類を選ぶ

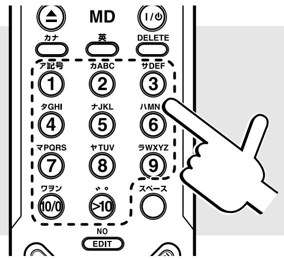




押す度に文字の種類が変わる

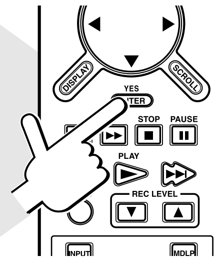
Aa …英字/記号
↓
カナ …カタカナ
↓
12 …数字

② 希望の文字を選ぶ



※1つのキーに複数の文字が割り当てられています。キーを押す度に文字が換わります。

③ 入力終了



入力モード表

カタカナモード

押す回数＼キー	ア記号 ①	カABC ②	サDEF ③	タGHI ④	ナJKL ⑤	ハMNO ⑥	マPQRS ⑦	ヤTUV ⑧	ラWXYZ ⑨	ワヲン 10/0	゛゜ >10
1	ア	カ	サ	タ	ナ	ハ	マ	ヤ	ラ	ワ	゛
2	イ	キ	シ	チ	ニ	ヒ	ミ	ユ	リ	ヲ	゜
3	ウ	ク	ス	ツ	ヌ	フ	ム	ヨ	ル	ン	ー
4	エ	ケ	セ	テ	ネ	ヘ	メ	ャ	レ		・
5	オ	コ	ソ	ト	ノ	ホ	モ	ュ	ロ		
6	ァ			ッ				ョ			
7	ィ										
8	ゥ										
9	ェ										
10	ォ										

数字モード

押す回数＼キー	ア記号 ①	カABC ②	サDEF ③	タGHI ④	ナJKL ⑤	ハMNO ⑥	マPQRS ⑦	ヤTUV ⑧	ラWXYZ ⑨	ワヲン 10/0	゛゜ >10
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	

英字／記号モード

押す回数＼キー	ア記号 ①	カABC ②	サDEF ③	タGHI ④	ナJKL ⑤	ハMNO ⑥	マPQRS ⑦	ヤTUV ⑧	ラWXYZ ⑨	ワヲン 10/0	゛゜ >10
1		A	D	G	J	M	P	T	W		.
2		B	E	H	K	N	Q	U	X		,
3		C	F	I	L	O	R	V	Y		'
4		a	d	g	j	m	S	t	Z		–
5		b	e	h	k	n	p	u	w		／
6		c	f	i	l	o	q	v	x		
7							r		y		
8							s		z		

※記号モードについては、下記の表を参照し、ア記号①キーを押して希望の記号を入力してください。

押す回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
記号	スペース	!	”	#	$	%	&	’	(	)	*
押す回数	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
記号	+	,	−	.	／	:	;	<	=	>	?
押す回数	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
記号	@	_	¥	←	→	「	」	`	スペース	!	”

たとえば、「アイノシシュウ　No.1」とタイトルを入力するときには

「ア」→ CHARA キーをインジケーターの「カナ」が表示されるまで押してから、ア記号①ボタンを押す。カーソルキーの▶を押してひとつ右に移動する。

「イ」→ ア記号①キーを2回押す。

「ノ」→ ナJKL⑤キーを5回押す。

「シ」→ サDEF③キーを2回押す。カーソルキーの▶を押してひとつ右に移動する。

「シ」→ サDEF③キーを2回押す。

「ュ」→ ヤTUV⑧キーを5回押す。

「ウ」→ ア記号①キーを3回押す。

「　」→ スペースを挿入するにはカーソルキーの▶を押してカーソル右に移動させる（入力後の文字訂正では無効）、またはスペース◯キーを押す。

「N」→ CHARAキーをインジケーターの「Aa」が表示されるまで押してから、ハMNO⑥ボタンを2回押す。カーソルキーの▶を押してひとつ右に移動する。

「o」→ ハMNO⑥キーを6回押す。

「．」→ ゛゜>10キーを押すまたは、ア記号①キーを15回押す。

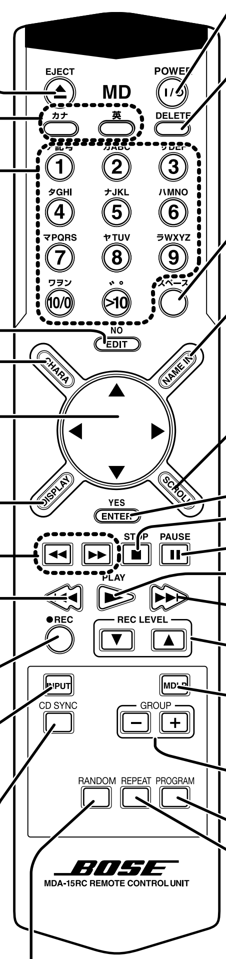
「1」→ CHARA キーをインジケーターの「12」が表示されるまで押してから、ア記号①ボタンを押す。

●濁点や半濁点を付けるときは濁点を付けたい文字の入力後に >10 キーを押します。

●文字を消すときは キーの◀、▶キーでカーソルを移動し DELETE キーを押します。

●間違えた文字を修正するときは キーの◀、▶キーで間違えた文字にカーソルを移動し、DELETE キーで消去し、改めて文字を入力します。

リモコン



▲EJECT キー
ディスクを取り出すときに押します。

カナ・英 切換キー
文字入力時に文字の種類を切り換えるときに押します。

数字・文字 キー
○ **MD 再生時**…ダイレクト選曲、プログラム再生を行うときに使用します。
○**文字入力時**…携帯電話の文字入力の要領で文字を入力することができます。

CHARA キー
文字の種類を選択するときに押します。

EDIT/NO キー
このキーとカーソルキーで MD のいろいろな編集を選ぶことができます。

DISPLAY キー
表示部の表示を切り換えるときに押します。

カーソル キー
文字入力時に文字を選んだり、文字入力部分を移動するときや MD のいろいろな編集を選ぶときに使用します。

◀◀ / ▶▶ 早戻し、早送り キー
再生の早戻しや早送りをするときに押します。

I◀◀ 選曲 キー (戻し)
○**通常再生モード時**…再生中の曲の先頭へ移動します。もう一度押すと一つ前の曲の先頭に移動します。ただし、1 曲目から最終曲へは移動しません。
○**ランダム再生モード時**…再生中の曲の先頭に移動します。
○ **REPEAT ALL 再生モード時**…通常再生モード時と同じですが、1 曲目を再生中に押すと、曲の先頭に移動し、もう一度押すと最終曲の先頭に移動します。
○**プログラム再生モード時**…再生中の曲の先頭に移動します。もう一度押すと一つ前のプログラム曲の先頭に移動します。ただし、1 曲目の場合はキーを受け付けません。

REC キー
MD の録音のときや録音中に曲番号をつけるときなどに使用します。
♪ : **再生専用の MD や誤消去防止の状態になった MDをご使用のときは録音モードになりません。**

CD SYNC キー
CD シンクロ録音をするときに押します。

INPUT キー
このキーで入力信号を選びます。押す度に DIGITAL IN 1、DIGITAL IN 2、ANALOG IN に切り換わります。

RANDOM キー
停止時にこのキーを押してランダム再生モードに切り換えます。もう一度押すと解除されます。

POWER キー
本体の電源を ON、スタンバイするときに押します。

DELEAT キー
文字入力時に文字を削除するときに押します。

スペース キー
文字入力時にスペースを入れるときに押します。

NAME IN キー
文字入力モードに切り換えるときに押します。

SCROLL キー
MD に記録されているディスクタイトル、曲名およびグループ名をスクロールさせながら 1 回表示します。スクロール中にこのキーを押すとそこでスクロールが停止します。もう一度押すと再びスクロールを始めます。

ENTER/YES キー
各設定を決定するときに押します。

■STOP キー
再生を停止するときに押します。各設定を解除するときに押します。

▶ PLAY キー
ディスクを再生したり、録音を開始するときに押します。

II PAUSE キー
再生を一時的に停止するときに押します。もう一度押すと再生を始めます。

▶▶I 選曲 キー (送り)
○**通常再生モード時**…次の曲の先頭へ移動します。ただし、最終曲から 1 曲目へは移動しません。
○**ランダム再生モード時**…次の曲の先頭に移動します。最終曲のときは受け付けません。ただし、ランダム /REPEAT ALL 再生モード時は新たなランダム 1 曲目に移ります。
○ **REPEAT ALL 再生モード時**…通常再生モード時と同じですが、最終曲時の 1 曲目に移動します。
○**プログラム再生モード時**…次のプログラム曲の先頭に移動します。プログラム最終曲時はキーを受け付けません。ただし、プログラム /REPEAT ALL 再生モード時はプログラム 1 曲目に移動します。

REC REVEL キー
録音レベルの調整をするときに使用します。
♪ : **初期設定値**
- **アナログ録音レベル…ー 3dB**
- **デジタル録音レベル…0dB**

MDLP キー
録音のとき MDLP 録音をするときに押します。押す度に LP 2、LP 4、標準と切り換わります。

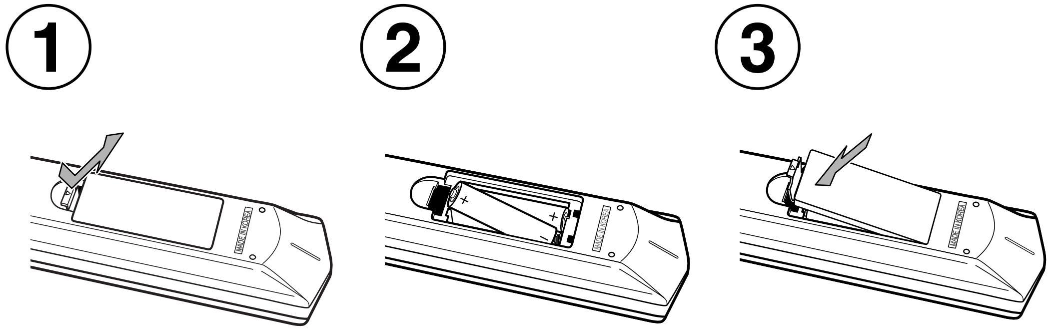
GROUP キー
グループを設定したり、グループ再生モードに切り換えるときや再生するグループを選択するときに押します。

PAROGARAM キー
停止時にプログラムの設定や解除をするときに押します。

REPEAT キー
リピート再生モードの設定や解除をするときに押します。

リモコンの取り扱いについて

電池の入れ方

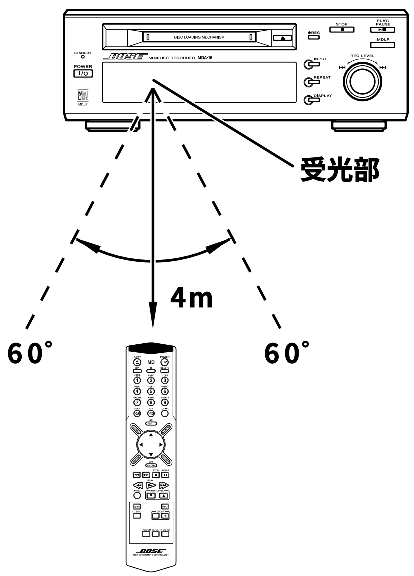


⚠ 電池についての注意

- 乾電池の⊕と⊖の向きを電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と古い乾電池、または、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は絶対に充電しないでください。
- 長い間（1ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、乾電池をリモコンから取り出しておいてください。
- 液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。

●付属の乾電池は動作チェック用です。早めに新しい乾電池と交換してください。

リモコンの動作範囲



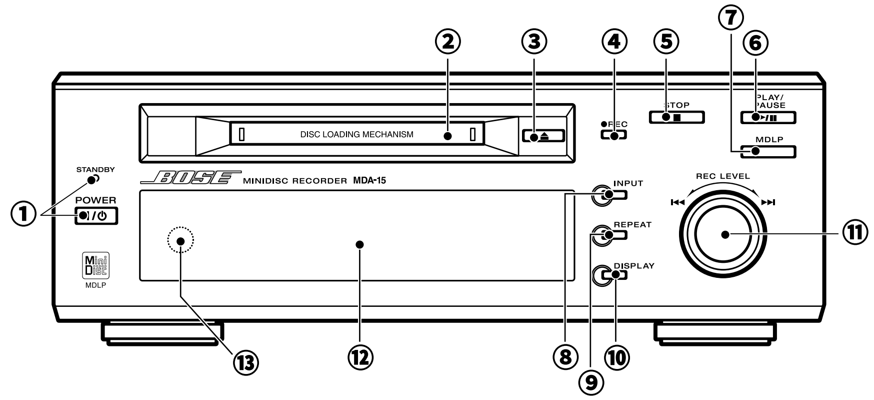
⚠ 使用上の注意

- メディアセンターの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコンの操作ができないことがあります。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますので、ご注意ください。
- リモコンとメディアセンターの受光部の間に障害物があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができないことがあります。

●電池の交換時期について

リモコンの電池が消耗すると、リモコンの動作範囲が狭まってきて効きが悪くなってきます。このような症状が出てきたらリモコンの乾電池を2本とも新しい乾電池に交換してください。

前面



①POWER/STANDBY（パワー/スタンバイ）電源スイッチとSTANDBY（スタンバイ）インジケーター
このスイッチを押すと表示部が点灯して電源が入ります。もう一度押すと電源が切れてSTANDBYインジケーター（赤）が点灯します。

ご注意
電源スイッチをオフにしても、回路の一部には電流が流れ続けます（スタンバイインジケーターが点灯して電源が供給されていることを示します）。長期間ご使用にならないときは、安全のため本機の電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

②MD挿入口
MDをここから入れます。

③ ⏏（イジェクト）キー
MDを取り出すときに押します。

④REC（レック）キー
録音のときや、録音中に曲番号をつけるときなどに使用します。

⑤ ■（ストップ）キー
再生を止めるとき、録音を止めるときなどに使います。

⑥ ▶/❚❚（プレイ／ポーズ）キー
再生や録音をスタートするときに、このキーを押します。再生中または、録音中に押すと、一時停止します。もう一度押すと再スタートします。

⑦MDLPキー
ATRAC3で長時間録音するときに使用します。

⑧INPUT（インプット/入力切換）キー
このキーで背面入力端子を選びます。押す度に“ANALOG IN”“DIGITAL IN 1”“DIGITAL IN 2”に切り換わります。

⑨REPEAT（リピート）キー
このキーを押すと同じ曲を繰り返して聴くことができます。一度押すとMDの1曲だけを繰り返し、もう一度押すと全曲を繰り返し、さらにもう一度押すとリピートが解除されます。

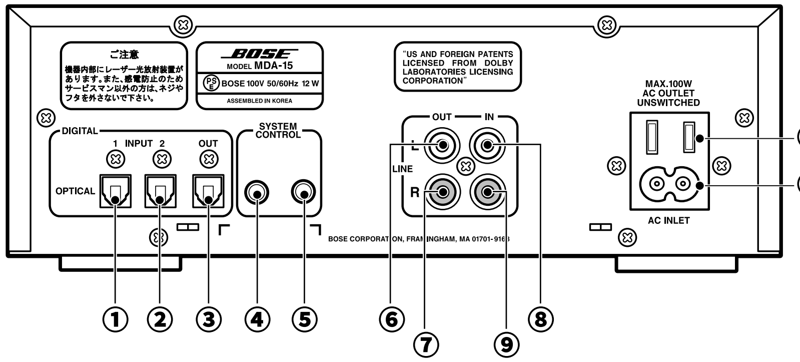
⑩DISPLAY（ディスプレイ）キー
表示部の表示切り換えに使用します。

⑪ ⏮/⏭ REC LEVEL（録音レベル）つまみ
選曲および録音レベルの調整に使用します。

⑫表示部
ディスク名、曲名、グループ名、曲番号、グループ番号、再生モード、録音モード、編集モードなど、いろいろな情報を表示するところです。

⑬受光部
内部にリモートコントローラーから出された赤外線を受光する部分があります。コントローラーの送信部をここに向けて操作してください。

背面



①DIGITAL I/O OPTICAL INPUT（光デジタル入力端子）1
光デジタル信号を入力する端子です。付属の角型、EIAJ 標準光デジタルケーブルを使ってこの端子に接続します。

②DIGITAL I/O OPTICAL INPUT（光デジタル入力端子）2
光デジタル信号を入力する端子です。角型、EIAJ 標準光デジタルケーブルを使ってこの端子に接続します。

③DIGITAL I/O OPTICAL OUTPUT（光デジタル出力端子）
サンプリング周波数44.1kHzの光デジタル信号が出力されます。角型、EIAJ 標準光デジタルケーブルを使ってこの端子に接続します。

④⑤SYSTEM CONTROL（システムコントロール）
ボーズ社アメリカンサウンドシステムシリーズAMS-1IIIのステレオレシーバー（RA-15）、DVDプレーヤー（DVA-15）などとシステムコントロールケーブルで接続します。

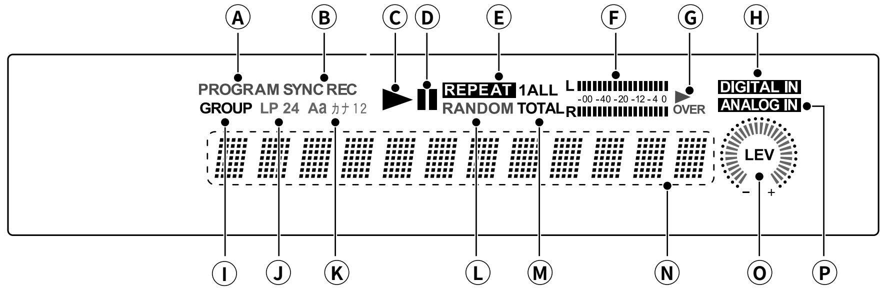
⑥⑦LINE IN（ラインイン）
外部からのアナログの信号を入力する端子です。

⑧⑨LINE OUT（ラインアウト）
MDのアナログの再生信号が出力されます。

⑩AC OUTLET UNSWITCHED
非連動（最大容量100W）の電源コンセントです。パワースイッチに関係なく常に電源が供給されています。

⑪AC INLET
商用電源AC100V（50/60Hz）のコンセントに接続します。

表示部の表示内容



Ⓐ PROGRAM（プログラム演奏）インジケーター

Ⓑ SYNC REC（シンクレック）インジケーター
システム接続でCDとのシンク録音のとき点灯します。シンクレック以外の録音のときはRECのみ点灯します。

Ⓒ ▶（プレイ）インジケーター

Ⓓ ❚❚（ポーズ）インジケーター
再生を一時停止しているときに点灯します。

Ⓔ REPEAT 1 ALL（リピート/1曲リピート、全曲リピート）インジケーター

Ⓕ ピークレベルインジケーター

Ⓖ ▶OVER（レベルオーバー）インジケーター
録音レベルがオーバーしたとき点灯します。録音の際はこのインジケーターが点灯しないように録音レベルを調整してください。

Ⓗ DIGITAL IN（デジタルイン）インジケーター
DIGITAL OPTICAL 1または2からの入力に切り換えると点灯します。

Ⓘ GROUP（グループ番号）インジケーター

Ⓙ LP 2 4（MDLP録音再生）インジケーター
LP2またはLP4モードで録音、再生しているとき点灯します。

Ⓚ 文字切換インジケーター

Ⓛ RANDOM（ランダム演奏）インジケーター

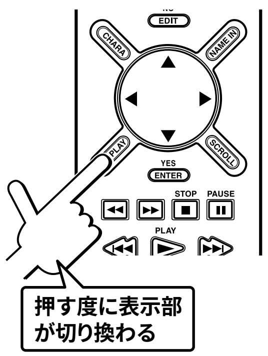
Ⓜ TOTALインジケーター

Ⓝ ANALOG IN（アナログ）インジケーター
LINE IN からの入力に切り換えると点灯します。

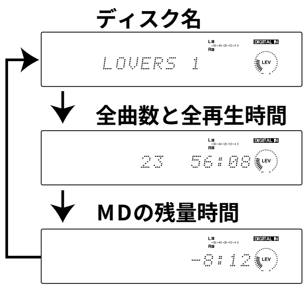
Ⓞ キャラクター表示部
文字や数字などを表示します。

Ⓟ LEV（録音レベル）インジケーター

表示部の表示切換について

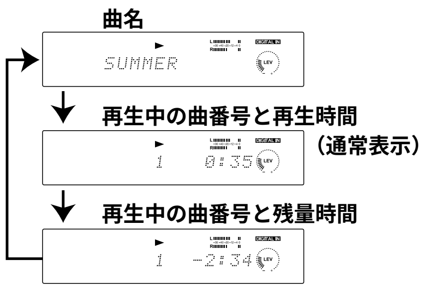


●停止中

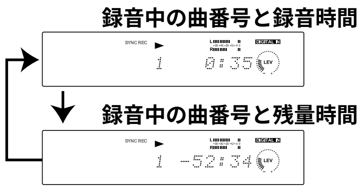


※MDソフトでは、ディスクの残量時間は表示されずにディスク名が表示されます。

●再生中



●録音中



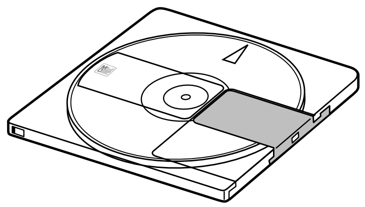
●曲名が入っているときは、再生中いつでも曲名をみることができます。SCROOLキーを押すと、表示部に曲名が流れます。曲名が流れているときに押すと曲名の流れが一時停止します。もう一度押すと再び流れます。

●曲名が入っていないときは、“ NO NAME ”が表示部に表示され、その後再生時間が表示されます。

MD（ミニディスク）の取り扱いについて

◆MDについて◆

MD(ミニディスク)とは

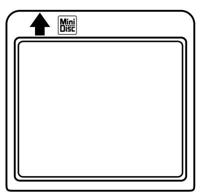


●小さいディスク
直径64mmのディスクを68×72×5mmの大きさのカートリッジに収めたもので、テープのように伸びたりからんだりする心配がなく、音質も劣化することもなく耐久性に優れています。また、カートリッジに収められているので、ほこり、キズ、指紋などもつきにくく取り扱いの簡単なディスクです。

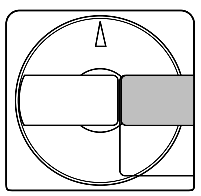
●デジタル録音、再生
MDは、録音、再生ともデジタル方式です。そのため、ノイズや歪みが極めて少なくコンパクトディスク(CD)に迫る高音質を実現しています。

●MDの種類について
MDには再生専用と、録音・再生ができる2つのタイプがあります。

・再生専用MD
再生のみが可能で、市販の録音済みソフトはこのタイプです。CDと同じ光ディスクで光学ピックアップで信号を読み取り、再生します。また、このMDには編集は一切できません。



・録音用MD
何度でも録音・再生ができる「生ディスク」です。光磁気ディスクを使用しておりレーザー光と磁気で記録する磁界変調オーバーライト方式を採用しています。



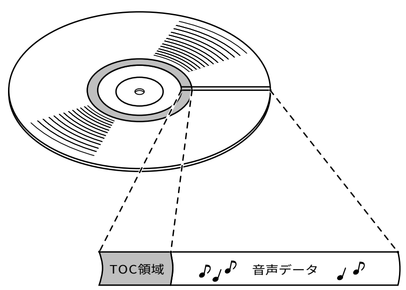
●ATRACについて
MDは、CDの約半分の直径でありながらCDとほぼ同じ長さの音楽を記録することができます。これは、新しく開発された聴覚心理学に基づく音声圧縮技術‘ATRAC : Adaptive TRansform Acoustic Coding(アダプティブ トランスフォーム アコースティック コーディング)”によるものです。この技術によって聴覚上の音質が損なわれることがないように音楽データを1/5に圧縮することができます。

●MDLPとは
ミニディスクの長時間再生モードのことで、新しい録音形式(ATRAC3)です。最長160分のステレオ録音可能なLP2モード、最長320分のステレオ録音可能なLP4モードの2種類があります。LP2モードでは、左右独立音で音声データーを圧縮し、LP4モードではジョイントステレオ(左右の音をひとまとめにして同時に圧縮する方法)になっています。

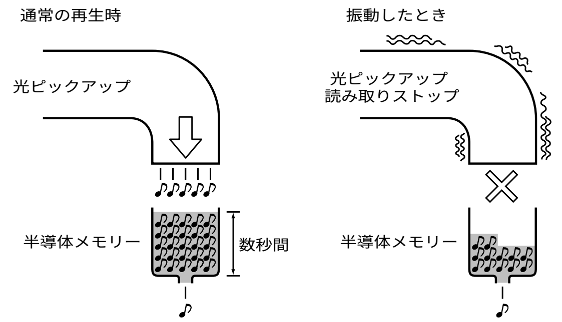
・LP2、LP4録音したMDは、MDLPに対応している機器でなければ再生することができません。

・本機はLP2、LP4再生の録音、再生に対応しています。

●素早い選曲(TOC)について
MDは、CDと同じように高速で目的の曲の頭出しができます。しかも、録音用のMDでは、頭出しのみならず録音した曲の編集も素早く行えます。
これは、曲の情報を“ユーザーTOC : Table Of Contents ”と呼ばれる音楽データとは別の領域で管理しているからです。MDはこのTOCデーターを書き換えるだけで、曲を消去したり、曲順を変更することができます。



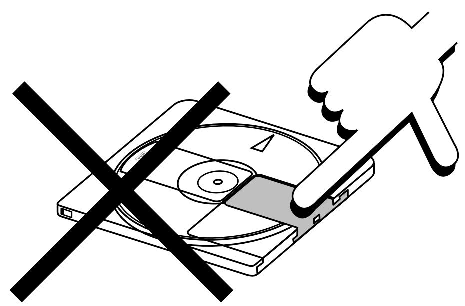
●音とびガードメモリー
MDは、ディスクから読み取られたデーターをすぐに再生するのではなくいったん半導体メモリーに蓄えておく音とびガードメモリーを採用しています。このため、外部からの衝撃や振動で光学ピックアップからの読み取り信号が途切れても、半導体メモリーのデーターがなくなる前に光学ピックアップからの読み取りが再開すれば音楽が途切れることなく再生することができます。



●MD取り扱いについて
ミニディスクは、カートリッジに収められていますので、ゴミや指紋を気にせずに手軽に取り扱うことができますが、カートリッジが汚れていたり、そっていたりすると誤動作を起こす場合があります。いつまでも美しい音を楽しむために次のことにご注意ください。

・MDに直接触らないでください。
シャッターを手で開けないでください。無理に開けるとこわれます。
また、シャッターを開けてカートリッジ内のMDを直接触らないでください。

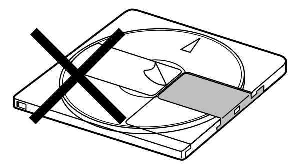
・定期的にカートリッジについたほこりやゴミを乾いた布でふき取ってください。

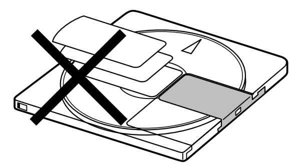


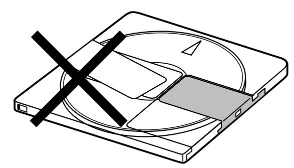
●MD保管上の注意
ミニディスクを次のような場所に置くことはさけてください。

・直射日光の当たる場所。
・暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
・車の中などの高温になる場所。
・投光照明機などの発熱物の近くの場所。
・極端に寒い場所。
・湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。
・カートリッジの中に、砂やほこりの入りやすい場所。

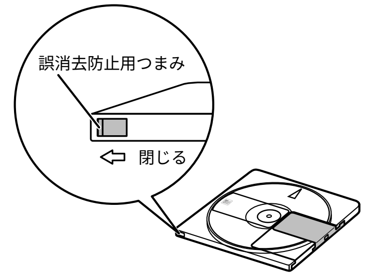
●MDにラベルを貼るときの注意
・ラベルは正しく貼り付けないと、ディスクが本体内部につまって取り出せなくなることがあります。







●大切な録音を消さないために
・録音用MDには、大切な録音を間違って消さないための、誤消去防止用つまみがついています。録音や編集が終わったら、カートリッジ側面の誤消去防止つまみをスライドさせ開いた状態にしておきます。新しく録音や編集をしなおすときは、閉じた状態に戻してください。



その他

システム上の制約について

ミニディスク(MD)システムは、従来のカセットやDATとは異なる方式で録音が行われます。

そのため、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

●最大録音可能時間に達していなくても“ DISC FULL ”が表示される。

MDシステムでは時間に関係なく、曲数がいっぱいになると“ DISC FULL ”の表示が出ます。255曲以上は録音できません。さらに曲を追加するには、不要な曲を消すか、2枚目のディスクに分けて録音してください。

●曲数も録音時間にも余裕があるのに“ DISC FULL ”が表示される。

曲中にエンファシス情報などの入切が多く行なわれると、曲の区切りと同じ扱いになり、時間や曲数に関係なく“ DISC FULL ”の表示が出ます。

●短い曲を何曲消してもディスクの残り時間が増えない。

ディスクの残り時間を表示するとき、8秒以下の部分は無視するので、短い曲を消しても時間が加算されないことがあります。

●つなぐことができない場合がある。

編集を行ってできた曲は、つなぐことができない場合があります。

●ディスクに録音した時間と残り時間の合計が、最大録音可能時間に一致しない場合がある。

通常1クラスタ(約2秒)が最小単位で録音されます。それに満たないものでも2秒分のスペースを使います。このため実際に使用できる時間は少なくなります。

また、ディスクに傷があると、その部分を自動的に削除するので、その分の時間が減ります。

●編集を行なった曲でサーチを行なうと、音が途切れることがある。

●曲番が正確につかないことがある。

デジタル接続でCDを録音するとき、CDの録音内容によって短い曲ができる場合があります。

また、オートマーク機能で自動的にトラックマーキングを行った場合、録音するものの内容によっては、曲番が正確につかない場合があります。

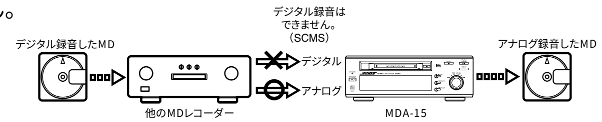
●“ TOC READ ”の表示がなかなか消えない。

購入したばかりの録音用ディスクを入れると、通常より“ TOC READ ”表示が長く表示されます。

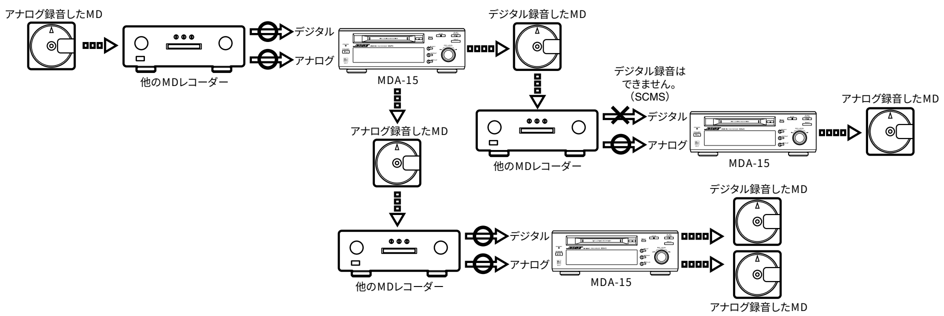
シリアルコピーマネージメントシステムについて

シリアルコピーマネージメントシステム(SCMS)は、著作権保護のため、各種のオーディオ機器間でデジタル録音ができるのは一世代だけに制限した規定です。

・CD(コンパクトディスク)、DAT(デジタルオーディオテープ)、MD (ミニディスク)ソフトからMDへデジタル録音できますが、一度デジタル信号をデジタル信号のまま録音したMDは、他のMDへデジタル信号のまま録音することはできません。



・アナログレコードやFM放送などを、本機で録音したMDから他のMDへデジタル信号のまま録音できますが、一度デジタル信号をデジタル信号のまま録音したMDから、他のMDへデジタル信号のまま録音することはできません。



メッセージ表示一覧

お使いになっているとき、状況により、英語のメッセージが出ます。日本語の意味は次の表の通りです。

メッセージ	意　　味
BLANK DISC	購入したばかりの録音用MD、または全曲を消去した録音用MDが入っている。
CANNOT COPY	・デジタル録音できない状態になっている(「SCMSについて」36ページ参照)。 ・コピープロテクトのかかっているソース(DVDビデオなど)の音声をデジタル録音しようとしている(14ページ参照)。
CANNOT EDIT	プログラム、ランダム再生の状態で編集しようとした。
DISC ERROR	異常な(損傷している、TOC が入っていない)MDが入っている。
DISC FULL	MDの残量時間がないため、録音できない(「システム上の制約について」36ページ参照)。
IMPOSSIBLE	MDの1曲目でコンバインしようとした。1曲目ではコンバインできない。
NAME FULL	曲名、ディスク名およびグループ名が、それぞれ60文字までで、総て合わせて約1700文字しか入れられない。

メッセージ	意　　味
NO DISC	MDが入っていない。
NO TRACK	曲は入っていないが、ディスク名だけ付いているMD。
PROTECTED	MDが誤消去防止状態になっている(「MDの取り扱いについて」34〜35ページ参照)。
RETRY	録音中、振動やMDの傷があったので、記録し直している。
RETRY ERROR	録音中、振動やMDの傷がいくつもあったため、記録し直しが連続し、正常に録音できない。
SORRY	つなぐことができない曲や部分をつなごうとした。
DIN UNLOCK	デジタル音源が正しく接続されていない。

その他

その他

故障かな？っと思ったら

症　状	原　因
・ディスクに示された収録可能時間を使い切っていないのに“DISC FULL”が表示される。	ミニディスクでは、時間に関係なく、録音できる曲数に制限があります。曲番号が255以上になる録音はできません。
・曲番号にも収録可能時間にも余裕があるのに“DISC FULL”が表示される。 ・コンバイン機能が使えないことがある。 ・曲を消しても残り時間が増えない。 ・早送り、早戻しをすると、音が途切れることがある。	部分的に消して録音しなおす操作を繰り返すと、ディスクのあちらこちらに空き部分ができます。このようなディスクに録音する場合、ミニディスクでは1曲のデーターを空き部分にこまかく分けて記録します。録音中、分けられた部分が多くなると“DISC FULL”が表示されることがあります。分けられて8秒以下の部分ができるとその曲はコンバイン機能でつなげることはできません。また、その部分は消しても残り時間は増えません。こまかく分けて記録されている曲は、早送りや早戻しすると音が途切れることがあります。
・録音した時間と残り時間を足しても、ディスクに表示された収録可能時間にならない。	ミニディスクでは、最低でも2秒分の連続したスペースがないと録音できません。そのため、短い空き部分のたくさんできたディスクでは、実際に録音できる時間は短くなります。

故障の場合のお問い合わせ先

故障及び修理のお問い合わせは、ボーズ・サービスセンター株式会社　☎ **042-357-5250**
住所　〒206-0035　東京都多摩市唐木田1-53-9　唐木田センタービル
製品等のお問い合わせは、ボーズ株式会社インフォメーションセンター　☎ **03-5489-0955**
までご連絡ください。

仕様

形　式：ミニディスクデジタルオーディオシステム
ディスク：ミニディスク
記録方式：磁界変調オーバーライト方式
再生読み取り方式：非接触光学式読み取り（半導体レーザー使用）
レーザー：半導体レーザー（λ＝780nm）
録音再生時間（80分MD使用時）：ノーマル時：80分
LP2録音時：160分
LP4録音時：320分
入力サンプリング周波数：32〜48kHz
録音サンプリング周波数：44.1kHz
コーディング：アダプティブトランスフォームアコースティックコーディング（ATRAC）/ATRAC3：LP2/LP4録音時
変調方式：EFM
チャンネル数：ステレオ2チャンネル
チャンネルセパレーション：88dB以上
周波数特性：20〜20,000Hz（±0.5dB）
ダイナミックレンジ：98dB以上
全高調波歪率：0.005%以下
SN比（再生時）：95dB以上
ワウフラッター：測定限界値以下

入力端子
アナログ入力
最小入力レベル：75mV
デジタル入力
オプティカル：－19dBm
出力端子
アナログ出力
アナログ出力：1.7V rms
デジタル出力
オプティカル：－19dBm
その他
電源電圧／電源周波数：AC100V, 50Hz/60Hz
消費電力：12W（電気用品安全法）
約5W（スタンバイ時）

外形寸法：230（W）×82（H）×275（D）mm
質　量：2.5kg

付属品
リモコン……1
単4乾電池（チェック用）……2
オーディオピンケーブル……2
光デジタルケーブル……1
システムコントロールケーブル……1

音楽著作権について

●放送やCD、レコード、その他の録音物（ミュージックテープ、カラオケテープなど）の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。
●従ってそれらから録音したテープを売ったり、配ったり、譲ったり、貸したりする場合、および営利（店のBGMなど）のために使用する場合には、著作権法上、権利者の許諾が必要です。
●使用条件は、場合によって異なりますので、詳しい内容や申請、その他手続きについては、「日本音楽著作権協会」（JASRAC）のもよりの支部におたずねください。

社団法人日本音楽著作権協会　本部　TEL.03（3481）2121　URL　http://www.jasrac.or.jp/

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。
なお、この商品の価格には、著作権法上の定めにより、私的録音補償金が含まれております。
（私的録音補償金についてのお問い合わせ先：社団法人　私的録音補償金管理協会電話：03-5353-0336）

保証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

BOSE®

Better sound through research®

http://www.bose.co.jp/

ボーズ株式会社

〒150-0044 東京都渋谷区円山町28-3 渋谷YTビル TEL 03-5489-0955

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。

●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

OM-1266

05•01-F-F•1（I-M）